

目の前にマンションが建つ

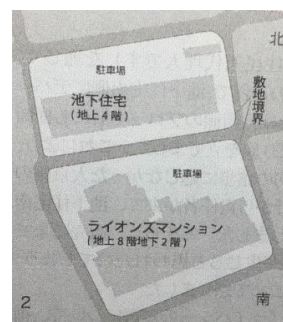
景住ネット（景観と住環境を考える全国ネットワーク）NEWS 9月30日は、表題について特集している。冒頭にライオンズマンション名古屋池下反対運動が紹介されている。地下鉄池下駅近くで「よし川」という料亭があったところで、いくつかのレストランが緑豊かな森のなかに点在していた。このあたりを通り、覚王山まで坂道をよく歩いたものだ。

「よし川」の経営悪化により、その跡地にライオンズマンションが建設されることになる。地上8階、地下2階で、建物は南棟と西棟の2つ。南棟は敷地の端から端までいっぱい建てられ、西棟は池下住宅側に向かい張り出しており、池下住宅との境はわずか10数メートル。周辺道路は南側の道路幅が7m以上あるのみで、他はすべて幅4m程度の狭さである。なかでも池下住宅との間の道路が最も狭い。それらの道路はすべて双方通行のうえ、東と西の道路は急坂である。

景住ネットの上村千寿子さんは「利益追求のための建物で埋まっていく街並みとそれに抵抗するチカラ」と題して、次のように述べる。

多くの場合、新しく計画されるマンションの方が高くボリュームがあり、敷地や空間に対して余裕がない。それは建物の高さやボリュームを規制するルールが何度も緩和されていることが大きい。マンション内の共用廊下、バルコニー、エレベーターなどの一部は建物の容積として除外されるからその分居室などを大きく取れる。その結果、外から見ると建物は確実に大きくなる。それにもう一つ、事業者の利益追求の姿がさらに露骨になっていて、そういう企業の姿勢に社会が慣れてしまった面もある。

写真下の図は池下住宅とライオンズマンションの配置だ。北向きの斜面の下に4階建ての池下住宅、その南側のライオンズマンションは8階建て、しかも、1階の地盤の高さは池下住宅よりも1階分以上高い。池下住宅からみれば南側に巨大な壁が出現する感じだろう。日照を奪われ、目の前の風景を壊され、巨大で無味乾燥な壁を突きつけられる。それだけでも耐えがたいのに、その迷惑なマンション建設のために粉塵、騒音、振動、工事車両の影響など長期間工事被害が続き、普段の静かな生活がマンション建設によって脅かされる。



(2022年10月8日)